Android

ダウンロードに保存してから共有

Android版 1.0.18 ＋ Hub 0.12.31 ｜ Google Playから通常の更新で入手できます。

1. 登録済みのHubに接続し、面談履歴から対象の報告書を開きます。「お客様用の面談メモ」を押します。
2. お客様にお渡しする内容を編集し、「お渡しする内容を確認」を押します。宛名・面談日・本文を見直し、直す場合は「編集に戻る」を押します。
3. 「確認してPDFをダウンロードに保存」を押し、保存完了の表示とPDFの保存名を確かめます。
4. 「PDFを共有」を押して送付先を選びます。後から添付する場合は「ダウンロード」で、面談日と識別記号を画面に表示された保存名と照合します。

メールを選んだら宛先と添付PDFを確かめ、ご自身で送信します。保存名には面談日と識別記号が入ります。面談日を入れずに保存すると、画面例のように「日付未入力」と表示されます。



① 内容を確認してダウンロードに保存。



② 保存名を確かめ、「PDFを共有」。

Android 操作マニュアル

Androidの新しい操作と、Mac・Windows Hubの変更点を確認できます。

読む順番

端末を使う方

Android章で登録・面談情報・同意・録音・送信・報告書の順に確認します。

管理する方

Hub章で利用登録、端末QR、録音受信、報告書の改訂・確認を確認します。

更新する方

共通章の更新手順から始めます。通常の上書き更新では、録音・履歴・登録を残します。

説明の対象：Android 1.0.16 / Hub 0.12.29 / iPhone・iPad 1.1.7

ストア審査・段階配信により取得できる版が異なることがあります。公開版は公式配布ページと各ストアで確認してください。

次のページの目次から、必要な操作へ直接移動できます。

ストライクファースト株式会社 kikorel.net/guide/

目次

改訂版の使い方 3
データを残して更新する 4
Google Playから更新する 5
QRを読み、Hubに登録する 6
つながっているか確認する 7
顧客・面談情報を入力する 8
保険会社・商品を選択する 9
説明し、同意を得て開始する 10
画面を離れる・消灯する 11
停止後にHubへ自動送信する 12
履歴で保存と送信を確認する 13
録音できなかった面談を記録 14
PDFと改訂版を開く 15
面談区分・商品を補完する 16
承認済みの方針を確認する 17
共有から電話録音を取り込む 18
音声ファイル・共有URLを使う 19
止まった箇所から確認する 20

改訂版の使い方

AndroidとHubの変更点を、実際の操作順にまとめました。iPhone・iPadの既存手順も後半に残しています。

1 最初に読む範囲

Androidを使う方はAndroid章、管理者はHub章から始めてください。目次の項目名を押すと該当ページへ移動できます。

2 説明の対象版

Android 1.0.16、Hub 0.12.29、iPhone・iPad 1.1.7を基準にしています。AndroidとWindowsの新しい版はストア審査・配信待ちの場合があります。各ストアに表示される版を確認してください。

3 従来の詳細資料の読み方

後半には従来の接続・保存先移行・CRM・通話取り込み等の詳細資料を収録しています。当時の版数・ページ番号は履歴です。変更された操作は本書先頭の改訂章を優先します。

4 最新の配布と条件

公開中の版・対応環境・料金・契約条件は公式サイトで確認してください。個別の社内契約の特例を、一般向けの無制限・無償条件として扱わないでください。

公式ガイド https://kikorel.net/guide/ 配布 https://kikorel.net/downloads/ 2026年11月18日改訂

データを残して更新する

同じアプリを上書き更新し、同じ保存先と登録済みHubを使います。

1 更新前に確認する

録音を停止・保存し、未送信と処理中の件数を確認します。PCの保存領域と業務データを所属先の手順で控えます。

2 Mac・WindowsのHubを更新する

Macは公式の公証済みDMG、WindowsはMicrosoft Storeを使います。Hubを通常終了してから更新し、同じOSユーザー・同じ保存先で起動します。二重起動で別の保存先を作らないでください。

3 Android・iPhone・iPadを更新する

Google PlayまたはApp Storeで普段のKIKORELを上書き更新します。公開版と内部テスト版の区別、版数を確認します。更新のためにアンインストールしません。

4 更新後に一度接続を確認する

保存先PCのHubを起動し、端末で登録済みHubを選びます。未接続なら接続操作を行い、通信と過去の録音・報告書を確認します。通常の更新ではQRの再登録は不要です。

アプリ削除・データ消去・保存領域の初期化は、録音・暗号鍵・登録の喪失につながります。更新の対処として行わないでください。

Google Playから更新する

Android 11以降の対応端末で、普段のKIKORELを使います。

1 公式の製品ページを開く

https://play.google.com/store/apps/details?id=jp.co.strikefirst.kikorel.android を開き、KIKOREL・開発元を確認します。

2 インストールまたは更新する

初回は「インストール」、既存利用者は「更新」を押し、「開く」になるまで待ちます。Googleアカウントと配信対象・版数を確認します。

3 公開版とテスト版を区別する

内部テストの参加者は公開前の版を受け取る場合があります。一般利用者へは正式公開された版を案内します。新しい版がまだ表示されない場合は公開状態を確認します。

4 データを残す

通常の更新は同じアプリへ上書きします。録音・登録のある端末でアンインストール、アプリのデータ消去、非公式APKへの置き換えをしません。

本章は1.0.16の操作を説明します。審査・配信の状況により、ストアで取得できる版とは異なる場合があります。

QRを読み、Hubに登録する

保存先のPCでHubを起動し、管理者がAndroid用QRを表示しておきます。

Hub 未接続 → 接続画面 | Android用QRを読む | 登録・接続する | 接続済みを確認

1 接続画面を開く

アプリ上部の「Hub」の接続表示、または「設定」→「Hub接続」を開きます。

2 Android用QRを読む

「Android用QRを読む」を押します。カメラの利用確認が出たら内容を確認して許可し、同じ所属先・利用者向けのQRを読みます。

3 登録内容を確認して接続する

署名を確認した表示、Hub名・利用者を確認し、「登録・接続する」を押します。公開Play版はアプリ専用の接続を使います。過去の検証用VPNアプリの手順を混用しません。

4 結果を確認して戻る

接続画面とアプリ上部の接続状態を確認します。録音権限がある利用者は面談入力へ進みます。登録失敗時はエラーを記録し、別Hubへ繰り返し登録しません。

QRは登録用の秘密情報です。チャットへ貼らず、通常の更新・再接続では保存済みの登録を使います。

つながっているか確認する

録音の保存先とHubの接続状態を、開始前に一度確認します。

1 表示を読む

アプリ上部とHub接続画面で、接続済み・再接続中・未接続・エラーを区別します。接続済みでもPC側が処理を完了したことまでは示しません。

2 一時的な切断から戻す

Hub PCと回線を確認します。回線が戻ると同じHubへの再接続を試みます。未接続のままなら「Hubに接続する」で接続し直します。

3 未送信を保持する

保存した時のHubと現在のHubが一致することを確認します。送信待ちの録音がある間は、登録削除・別利用者への切替で解決しようとしないでください。

4 停止条件を確認する

手動の切断、利用許可の停止・期限、OSの制限、PCのスリープ等は別途確認します。常時接続や全ての回線での自動復旧を保証する表示ではありません。

画面を離れたことと録音停止は同じではありません。録音状態とHub接続状態を別々に確認してください。

顧客・面談情報を入力する

「面談」で、入力→録音同意→録音・保存の順に進みます。

1 / 3 面談情報	顧客・日時・追加情報	面談区分・保険会社・商品	録音同意へ進む

1 新しい面談を準備する

顧客名、顧客ID、募集人等を確認します。必要な情報が未確認なら推測せず、確認して入力します。

2 日時・面談方法を確認する

「日時・面談回数（確認・変更）」を開き、実際の日時、面談回数、対面・電話等の方法を確認します。録音開始日時を使う設定との違いに注意します。

3 必要な追加情報を入れる

「年齢・同席者・契約者（追加情報）」を開き、実際の年齢、同席者、契約者等を入力します。年齢や同席条件を推測で補いません。

4 面談区分を確認する

自動判定を使うか、今回の区分を明示するか確認します。続いて「今回扱う保険会社・商品」を選択し、「録音同意へ進む」を押します。

事前入力は同意取得や録音開始ではありません。録音前に顧客・日時・商品・保存先を確認してください。

保険会社・商品を選択する

保険会社・商品はHubから同期した一覧を使います。

1 商品一覧を同期する

Hubへ接続し、「取扱保険会社・商品を再同期」を押します。同期結果と所属先を確認します。

2 商品を追加する

「商品を追加」を押し、取扱保険会社と商品を選択します。複数商品を扱った場合は必要な分を追加します。画面に補足欄がある場合は、選択済みの内容と区別して入力します。

3 選べないとき

接続、Hub側の取扱会社・商品設定、同期結果を確認します。別の保険会社を仮選択したり、存在しない商品を入力して進めたりしません。

4 面談予定を保存する

「現在の入力を面談予定として保存」「予定を保存して次を入力」を必要に応じて使います。再開時は「保存済みの面談予定を開く」で対象を選び、日時と内容を見直します。

補完画面の商品も同じ取扱一覧を使います。商品一覧の同期は、既存の録音原本を書き換える操作ではありません。

説明し、同意を得て開始する

顧客に説明内容を確認いただいてから、録音を始めます。

1 説明と登録情報を確認する

「2 / 3 録音同意」で顧客に画面を向け、録音・文字起こし・証跡報告への利用、取扱窓口等を説明します。

2 同意と確認者を記録する

同意が得られた場合だけ「録音・文字起こし・証跡報告への利用に同意を得ました」をオンにし、「同意確認者の氏名」を入力します。

3 マイクを許可して開始する

必要なマイク許可を確認し、「同意を確認して開始」を押します。録音中の表示、経過時間、保存先を確認します。開始できない場合は表示された案内を確認します。

4 同意が得られない場合

顧客との会話を録音せず、「録音を断られた場合の事後記録へ」を使います。事後記録を同意取得済みの会話録音として扱いません。

マイクの許可と顧客の録音同意は別です。OSで許可しただけで、顧客の同意を得たことにはなりません。

画面を離れる・消灯する

録音は録音サービスで継続します。端末内の保存と通知を確認してください。

1 録音状態を確認する

録音画面に録音中と経過時間が表示され、Androidの録音通知があることを確認します。

2 ホーム・消灯中

ホーム画面へ移動したり画面が消灯しても、録音が継続する設計です。アプリの強制停止、データ消去、権限取消、端末再起動は録音継続の操作ではありません。

3 着信・他アプリ・容量不足

電話や他の録音アプリによるマイク競合、OS・省電力設定、容量・電源不足で中断する場合があります。中断表示を見逃さず、残った録音範囲を確認してください。

4 終了して保存する

アプリへ戻り、録音停止・保存のボタンを押します。保存処理が終わるまで待ち、履歴で対象の音声と中断の有無を確認します。

Pixel 6ではホーム移動と90秒消灯中の録音継続を確認しました。全機種・長時間・実着信の受入を保証するものではありません。

停止後にHubへ自動送信する

既定の自動送信では、録音開始時の登録先Hubに届けます。

停止して保存	端末に暗号化保存	登録先Hubへ送信	Hub受領済みを確認

1 開始前に保存先を見る

面談画面の「録音の保存先：登録済みのHubへ自動送信」を確認します。Hub名・利用者を確認してから開始します。

2 設定を確認する

「設定」→「録音の自動送信」で「登録済みのHubへ自動送信」を確認します。「自動送信を停止して端末内に保存」を選んだ録音は、自動送信する設定とは異なります。

3 停止・保存後の状態を見る

端末に暗号化保存した後、Hubへ送信します。未接続なら端末に残したまま接続後の送信を待ちます。保存と送信を完了扱いに混同しません。

4 受領と報告書を見る

履歴の「Hub受領済み」等を確認し、Hubの保存済み録音と照合します。報告書は別途処理完了を待ちます。

登録を切り替えても既存録音の送信先が自由に変わる仕組みではありません。誤送信防止のため元のHubとの対応を保ちます。

履歴で保存と送信を確認する

端末に残った音声とHubの報告書は、同じ案件か照合します。

1 履歴を開く

画面下の「履歴」を開き、日時、録音名、送信状態で対象を選びます。「端末内で再生」で必要な原音を確認します。

2 送信待ちを確認する

接続と保存先Hubを確認します。必要なら「保存した音声をHubに送る」で対象と送信先を確認し、「送信する」を押します。

3 対象が出ないとき

保存時の登録先と現在の登録先が違う、端末内専用として保存した、中断・欠落がある等の条件を確認します。無理に別案件へ取り込み直しません。

4 録音が届かないとき

端末の保存済み→Hub接続→Hub受領→報告書処理の順に確認します。エラー、時刻、録音IDを控え、原音を残したまま管理者へ相談します。

送信済み表示だけで報告書の内容や承認の完了まで判断しません。録音原本と履歴を削除しての再試行は避けます。

録音できなかった面談を記録

面談後の担当者自身の説明を、顧客との会話録音と明確に分けます。

1 事後記録を開く

「録音できなかった面談を事後記録」または同意画面の「録音を断られた場合の事後記録へ」を押します。

2 事実と不確実さを入力する

実際の面談終了日時、録音できなかった理由、補足、裏付け資料、記憶が不確かな点、記録者等を確認します。録音拒否と技術的な中断を取り違えません。

3 面談後に担当者のメモを録音する

顧客との会話が終わったことを確認し、「事後音声メモを録音開始」を押して担当者自身の記憶・説明を記録します。顧客との会話を隠れて録音する手順ではありません。

4 送信結果と報告書を確認する

保存後、対応Hubへの自動送信・受領と報告書の完成を確認します。会話録音なし・同意なしの情報を保持し、証跡Cとして確認します。

事後メモの受信・報告書化には対応Hub 0.12.29が必要です。証跡Cを、録音がある場合と同じ強さの証拠として扱いません。

PDFと改訂版を開く

端末でHubの保存済み報告書を取得し、版を区別して確認できます。

Hubの報告書	第1版 / 第2版を選択	PDFの全ページを確認	原音・状態と照合

1 Hubの報告書を開く

履歴からHubの報告書を開き、対象の顧客・案件・日時を照合します。接続中のHubと利用者の閲覧範囲内で表示します。

2 初版と改訂版を選ぶ

一覧の「第1版」「第2版」等を確認して選びます。版情報が不明な表示を、推測で最新版と判断しません。

3 PDFのページを確認する

表示されたPDFをページ送りして全体を確認します。原音、案件情報、文字起こし、判定、版・確認状態を照合します。

4 表示できないとき

Hubの接続、権限、処理完了、容量を確認します。「報告書一覧を読み込む」で再取得し、必要ならHub PCで同じ報告書を確認します。

表示中にHubや利用者を変えた場合は、報告書を開き直します。別の利用者の閲覧権限が引き継がれる仕組みではありません。

面談区分・商品を補完する

補完は原音を変えず、別の報告書の版を作ります。

1 補完対象を開く

報告書を開き「報告書を補完・改訂する」を押します。対象の案件と版を確認します。

2 対象項目だけを変更する

面談区分と今回の商品情報を確認・選択します。顧客名・日時等の無関係な項目を編集する画面ではありません。取扱会社・商品の同期結果も確認します。

3 照合・理由・確認者を記録する

「原音と補完内容を照合しました」を確認し、変更理由と確認者を入力します。未確認の内容を推測で埋めません。

4 保存後に新しい版を開く

「補完内容を保存して報告書を改訂」を押し、Hubでの完了を待ちます。履歴から一覧を読み直し、第2版等を開いて内容・再確認の要否を確認します。

原音と初版を保持します。通信中に連打・別案件へ再登録せず、処理結果を確認してから次の操作へ進んでください。

承認済みの方針を確認する

Hubから配信された代理店方針と、その版・対象を確認します。

1 方針を開く

面談画面の「代理店方針・読み上げ」を開きます。表示された方針の名称・版・承認状態を確認します。

2 配信がない場合

「Hubで配信された代理店方針がありません」と表示されたら管理者へ確認します。未承認の文書を代わりに作成・配信しません。

3 説明と読み上げ

対象と内容を確認し、画面に読み上げ操作がある場合は内容を聞き取れる環境で実行します。端末の音量・言語等を確認してください。

4 確認の証跡

方針の確認・読み上げ等の状態を画面と報告書で確認します。ボタンを押しただけで、相手が説明を理解したことや同意したことを確定しません。

端末音声の読み上げと、録音同意の取得は別の確認です。所属先が承認した方針と運用に従ってください。

共有から電話録音を取り込む

電話アプリ等で保存済みの音声を、KIKORELに取り込みます。

1 録音元で共有する

電話アプリの録音履歴などから対象の音声を選び、「共有」→「KIKOREL」を選びます。機種や電話アプリで共有できない場合は、許可された方法で音声ファイルを保存します。

2 取り込み確認画面を確認する

顧客、募集人、実際の通話開始日時、録音案内・同意の確認者を入力します。共有ファイルを選んだだけではHubへ送信しません。

3 音声と保存先を照合する

音声を再生し、内容と日時を確認します。登録済みHubへ後で送れるように保存する場合は、その選択と送信先を確認します。必要な同意・確認項目を満たして「確認して保存」を押します。

4 保存後に送信する

履歴で暗号化保存と未送信状態を確認し、「保存した音声をHubに送る」から対象・送信先を選んで送信します。Hubの受領と報告書を確認します。

KIKORELが電話回線の会話を自動で録音する方式ではありません。電話側の録音機能・共有可否は機種等に依存します。

音声ファイル・共有URLを使う

面談終了後の音声・録画を、対象の案件に対応づけて取り込みます。

1 音声ファイルを取り込む

「電話録音を取り込む」または「Zoom録音を取り込む」から対象ファイルを選択します。M4A・MP3・WAV（16bit PCM）、256MiB・4時間以内等の画面の検査条件を確認します。

2 実際の面談情報を入力する

顧客、担当者、同席者、実際の開始日時、録音案内・同意の確認者等を確認します。現在時刻やファイル作成日時を実際の面談日時と混同しません。

3 Zoomの共有URLを取り込む場合

「Zoom録画の共有URLを取り込む」で面談終了後のHTTPS共有URLと必要な情報を入力します。URL・録画へのアクセス権と、顧客・日時・同意を確認して進めます。

4 結果を確認する

ファイルは端末内保存後に必要な送信を行い、共有URLはHubの処理結果を確認します。既存案件IDの参照は、元案件への自動統合とは異なります。

Zoomクラウドへの自動連携・自動収集とは別の操作です。取り込み元の原本を残し、Hubの受領・処理結果を照合します。

止まった箇所から確認する

録音・接続・送信・報告書を分けると、必要な対処を選べます。

1 録音を開始できない

マイクの許可、他アプリ・通話による使用、容量、利用権限を確認します。開始前に表示された案内を読み、無理に同意欄だけ切り替えて続けません。

2 録音の中断・欠落がある

履歴の中断表示と残った原音を確認します。記録を完了扱いにせず、所属先へ報告し、必要なら事後記録を別の種別で残します。

3 Hubへ届かない・PDFが出ない

元のHubへ接続し、送信待ち→Hub受領→処理状況の順に確認します。端末の同じ音声を別案件へ繰り返し取り込みません。

4 問い合わせる

アプリ版、OS、Hub版、時刻、画面のエラー、案件・録音ID、どの工程で止まったかを伝えます。パスワード、QR、登録コード、顧客音声を無断で公開・送付しません。

サポート https://kikorel.net/support/ 録音・原本・登録を残したまま、管理者と確認してください。